

平山郁夫シルクロード美術館 News

The Hirayama Ikuo

Silk Road Museum

News

No. 17

平成26年1月1日発行



平山郁夫『流水間断無 (奥入瀬渓流)』(部分)
1994年 12曲屏風 171.2×727.2 cm

昭和34(1959)年初夏、29歳の平山郁夫は、健康や生活、創作上の悩みを抱えながら、学生の写生旅行の引率のため八甲田山と奥入瀬川に赴きました。この旅は平山にとって大きな転機となる旅であり、その秋、平山は『仏教伝来』を発表します。のちに画家はこの旅のことを「苦しみ抜いて、ようやく歩き通した末に見た景色は、五月の爽やかな風に包まれて、私に生きる喜びを心から教えてくれた」と記しています。それから35年の年月を経て、あらためて奥入瀬渓流に取り組んだ作品がこの当館所蔵の幅7メートルを超える大作『流水間断無』です。

この作品について平山は、このように語っています。「流れていった水は二度と戻ってこない、今、目の前にある水は流れることをやめず、連続した動きでありながら、それは瞬間瞬間の出来事として積み上げられている。」「苦むした岩間を流れる水はかたときも留まらず同じかたちを作つては崩れ、崩れては作りと繰り返している。流水は時の流れのように、悠久に流れている。」

(引用は『平山郁夫 平成の画業1 日本の街道』(講談社 2002年)より)



公益財團法人

平山郁夫シルクロード美術館

展覧会紹介

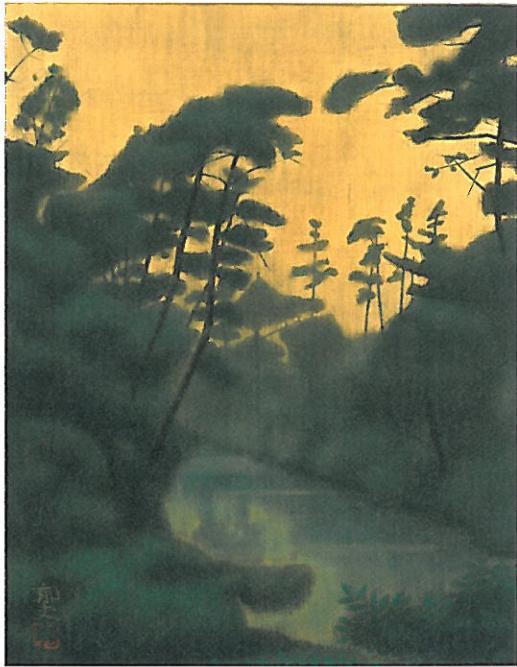
The Hirayama Ikuo Silk Road Museum
Exhibition

平山郁夫 日本の風景を描く

2013年11月16日(土)～2014年6月23日(月)

平山郁夫はシルクロードの画家として広く知られてきましたが、日本の緑豊かな自然や、古刹が生み出す日本固有の美にも目を向け、数々の名作を描いています。本展では平山郁夫が描いた日本の美に焦点をあて、青森の奥入瀬を描いた12曲の屏風形式の大作《流水間断無(奥入瀬渓流)》(1994年)や《薰風釈迦堂 比叡山延暦寺》(2004年)、《奈良 佐保路の池》(1970年)などを展示します。そのほか、千代の富士の引退記念に描いた《富士山》(1991年)の素描、《金閣寺》など、これまでほとんど公表されていなかった作品も一堂に会します。今回の展示では、日本の美を軸として平山郁夫の絵画の世界を堪能できるまたとない展覧となっております。

(表紙の絵《流水間断無(奥入瀬渓流)》も同展にて公開)



《奈良 佐保路の池》1970年

シルクロードのコイン

王侯たちの肖像 展示室3.4

2014年3月21日(金)～6月23日(月)

文化や宗教、交易品が行き交ったシルクロードは、侵略者や遊牧民たちが辿った道でもありました。シルクロード上に広大な領土を築き上げた帝国、これに抗った小国が数多くあり、悠久の歴史の中で栄枯盛衰を繰り返してきましたが、歴史にその名をとどめる王たちは僅かでしかありません。歴史を紡いだ王たちが発行したコインは、実在した王の名やその肖像だけでなく、重さや銘文、出土地などから民族や言語、宗教から領土の広がりまで様々な情報を今に伝える貴重かつ重要な資料です。本展では、2000枚に及ぶ当館所蔵のコイン・コレクションの中から、ギリシアとアジアを征したアレクサンドロス大王とその後継者たち、大ローマ帝国の皇帝、ペルシアの「諸王の王」、中央アジアに霸権を競った遊牧民の王たちが発行したコインを中心的に展示し、シルクロードに繰り広げられた歴史と文化を展観します。



カニシカ1世金貨

おもな展示品

*古代世界の覇者アレクサンドロス大王の銀貨

*古代史を彩った絶世の美女クレオパトラ(7世)の肖像を刻んだ銀貨

*世界で最も美しいと云われるグレコ・バクトリア諸王の銀貨

*大帝国を築いたローマ皇帝たちの金貨

*ガンダーラの仏像誕生にかかるクシャン朝の金貨

*正倉院文化に多大な影響を与えたササン朝ペルシア諸王の銀貨など



《富士山》1991年

Information

- ◆会期 2013年11月16日(土)～2014年6月23日(月)
※火曜日休館
- ◆開館時間 午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- ◆観覧料 一般1200円／高・大学生800円／小・中学生無料
※障害者手帳をお持ちの方無料、介護の方1名まで600円
※70歳以上の方、20名様以上の団体 各100円割引
- ◆主催 公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館
- ◆後援 山梨県、山梨県教育委員会、北杜市、北杜市教育委員会、山梨日日新聞社、山梨放送、信濃毎日新聞社、八ヶ岳ジャーナル、NHK甲府放送局、テレビ山梨、FM富士、FM八ヶ岳
- ◆協賛 キリンビール

これからのイベント Information

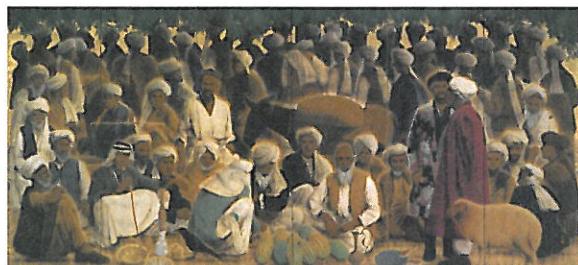
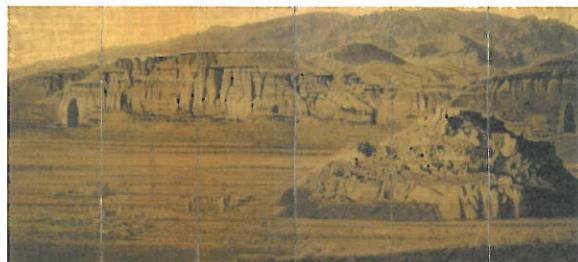
平山郁夫シルクロード美術館は2004年7月17日に開館し、今年の夏にはおかげさまで10周年を迎えます。2014年は記念すべき節目の年として、開館10周年記念展をはじめコンサートやワークショップ、講演会などさまざまなイベントを予定しております。ご期待ください!!

開館10周年記念展

「平山郁夫とシルクロードの旅」 2014年6月28日(土)～10月6日(月)(予定)

昭和43(1968)年夏、平山郁夫ははじめてシルクロードへの取材の旅に出発しました。日本美術の源流を求めるための旅は、インドのニューデリーから、パキスタンのガンダーラ地方を経て、アフガニスタンのバーミヤン遺跡を訪れるというものでした。若き日の平山郁夫夫妻はここからさらにウズベキスタンへと飛び、天山山脈をその目に焼き付けました。

平山郁夫の初期シルクロード・シリーズを代表する大作『塵燐のトルキスタン遺跡』(1970年)、『中亞熱闊図』(1971年) (いずれも駒形十吉記念美術館所蔵 本展出品予定)が発表されたのはそれから約2年後のことでした。本展では、その後の平山郁夫の人生を運命付けることになった、この「はじめてのシルクロード紀行」を軸に、平山郁夫とシルクロードとの関係に焦点をあて、平山郁夫の絵画作品と旅の記録、ガンダーラ仏などのシルクロードの名品、約100点をご紹介いたします。



上《塵燐のトルキスタン遺跡》

下《中亞熱闊図》

屋上の小さな野草庭園

オミナエシやワレモコウ、フジバカマといった秋の野草が今年も美術館の来館者を楽しませているようだ。今から5年前の美術館増築当時(2008年)、建築物の上に客土をのせて庭を造りたいから植栽を考えほしいと依頼された。建物のコンクリート部分まで根が伸びていくことも考えられたので大部分は芝生と平山先生が好みたいろんな種類の野草が楽しめるような植栽を計画した。美術館がある北杜市長坂町小荒間は冬の寒さが厳しい地域であるが、春にはスミレやヒメシャガ、ヒトリシズカからオカトラノオやノアザミ、ホタルブクロなど、夏から秋にかけてはオミナエシやキキョウ、カワラナデシコなど多様な野草を楽しむことができるイメージした。敷地周辺にはモミジやヤマボウシなど里山の雑木などをやわらかな木陰をつくるた



めに植栽した。幅広い年代の来館者が季節ごとの草花を楽しめるように配慮もしたつもりだ。

晩年、平山先生は地域の子供たちのために写生教室を毎年開催していた。私も数年、スケッチの材料としていろいろな種類の山野草を探して準備をした。その時の作品の一つに「クリン草清里清泉寮にて」というのがあるが、きれいなオレンジ色のクリン草を描いた作品で私の中でとても印象深く残っている。他にも平山先生はたくさんの植物を題材にした素晴らしい作品を残しているが、これからも子供たちや絵を描く多くの人々がこの地域の景色や樹木、草花を題材に素晴らしい作品を生み出していってくれることを願っている。

(大塚広夫)



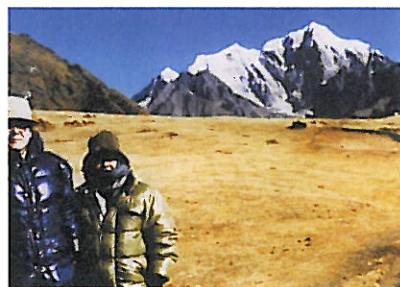
大塚広夫
北杜市の造園会社「雲松園」専務取締役。
東京農業大学大学院で農村の植物を研究。

「平山郁夫 日本の風景を描く」展に思ふ事

1978年(昭和53年5月)平山が薬師寺の高田好胤管長にお目にかかった時、管長は薬師寺に絵殿を作りたいので平山が昭和34年美術院展に「仏教伝来」を出品以来仏教的な絵を描き続けているのでその絵殿に平山に絵を寄贈してほしいと云ふご依頼がありました。平山は丁度、中国の唐僧玄奘三蔵の本をよく読んでいたので、薬師寺は慈恩大師の法相宗の寺なのに、玄奘の絵なら描きたいと申し上げると、慈恩大師は玄奘の仏弟子なので結構ですといふ事になり、平山は「できるだけ玄奘の「求法の旅」を経験して描きたいので絵の完成は20世紀終わり迄かかる」と申し上げると、管長は20年でも30年でもお待ちしますと云はれ、そばで聞いていた私は男同士の約束とはこんなものかと驚いたのです。

現実的に考えると20数年玄奘の歩いた西域にゆけるのだろうか、平山は広島で原爆により放射線をあび、結婚後も貧血に苦しんだ時期もあったので心配でした。

絵殿の中の絵の大きさは2.1メートル×50メートルで7枚の絵を納めると云ふのです。絵を描く大きなアトリエが必要です。それに「求法の旅」の旅行費用、特別な紙、日本画なので岩絵の具、筆、その他膨大な費用を平山は、日本の風景、寺々を描いて、絵を買ってもらわなければ絵は出来上がらないのです。親からもらふものは何もありません。スポンサーといった人もいませんでした。



平山郁夫シルクロード美術館館長
平山美知子

それからの平山家は或意味で戦争だったと思ひます。

こういふ事はすぐ広まっていき、多くの方が絵を買ってください、多くの方々からお励ましをいただきました。

中国は玄奘の歩いた西域を誰よりも早く開放してくださり、危険な処も万全な用意をしてくださいました。こういった処には私はいつも同行したのです。けれど日本では平山が写生にゆくと云ふと手伝ってくださる方が多く、立派な宿舎、食事も最大級のものでなしだったりしますのでお供の私迄気を使われるのは申し訳ないので、国内の旅行はなるべくゆかない事にしました。1994年の「奥入瀬渓流」には案内の人、3人で行きました。絵を見る度

に熱心に写生する平山を思ひ出します。

平山は人の何倍も努力したと思ひます。疲れて帰ってきた平山にいやな事は云わない様にしたつもりです。身体によい様な食事といつても普通の事ですが、夕食が終わる頃は私の方が疲れて、寝てしまふ事がよくありました。こんな私をみて平山はいつも「お

い！ そんな処で寝ていると風邪をひくよ！」と声をかけてくれました。私がぐっすり寝こんでしまってふと気がつくと、私に毛布や薄い布団がかけてあるので驚いた事もありました。

こんな事で、私達はどちらが世話をしていたのか分からぬ夫婦だったと思ひます。



◆ワイン&クラフトフェスタの報告

日時：10月5日(土)・6日(日) 各日10:00～16:00

場所：らくだ公園(美術館屋上公園)

富士の国やまなし国文祭提案事業の関連事業として開催した「ワイン&クラフトフェスタ」は、二日間にわたり8店舗の飲食と、9店舗のクラフトの出店があり、延べ約800名の来訪者で賑わいました。飲食ブースは、平山絵画をラベルにしたワインを中心、厳選した八ヶ岳の美味しい食べ物や飲み物が揃い、クラ



フトブースは、各出店者が「ワインか葡萄」にテーマを絞った作品を並べイベントを盛り上げました。当館にとっては、お酒だけでなく、飲食を伴うイベントが初めてではありましたが、落ち着いた上質な時間をお届けできたのではないかと思います。

新文化庁長官きたる！

2013年10月5日特別講演会

「地中海世界のワイン文化」 青柳正規先生

ワイン&クラフトフェスタ初日は、ワインの歴史や文化に造詣の深い青柳正規文化庁長官(東京大学名誉教授)をお迎えして、特別講演会「地中海世界のワイン文化」を開催いたしました。青柳先生のご専門は古典考古学とギリシア・ローマ美術史。これまでにシチリアのアグリジェント、ローマ近郊のタルクニア、ヴェスヴィオ山の噴火で埋没したソンマ・ヴェスヴアーナ(ナボリ)などで、ローマ時代の別荘跡の発掘調査をされています。今回の講演では、古代ギリシア・ローマ時代のワインの楽しみ方から、イタリアの発掘現場での自家製ワインにまつわる体験談、現代のイタリア、フランスのワイン事情に至るまで、人情味溢れる楽しいお話をいただきました。

青柳先生には、今回の講演会のみならず、「シルクロードの饗宴 葡萄とワインの文化をめぐって」展の構想から、東大の資料写真の提供、カタログの執筆にいたるまで、多大なるご協



伝統楽器「古箏」のスペシャリスト

2013年10月6日記念演奏会

「毛丫古箏コンサート」

第Ⅰ部13:00～13:40

第Ⅱ部14:30～15:10



フェスタ二日目には、展覧会を記念したコンサートを実施しました。平山絵画に囲まれた中、北京出身の毛丫(マオ・ヤ)さんに、中国伝統楽器「古箏(こそう)」を演奏していただきました。二部構成にすることによって、より大勢の皆様に聞いていただくことができたかと思います。曲は「シルクロードの夢」や「長安八景」、「ジャスミンの香り」などを選んでいただき、絵画と音楽の響き合うシルクロードの世界を堪能していただく時間となりました。

贊助会主催バスツアー

2013年10月6日(日)美術館贊助会バスツアーが、美術館の「ワイン&クラフトフェスタ」に合わせて催行されました。早朝に新宿を出発し、心配だった天気も徐々に回復して清里に到着。故平山郁夫理事長が生前小学生を対象に開いた絵画教室跡からは清々しい山並みが広がって見え、一同感慨深く高原の空気とともにその景色を堪能いたしました。散策後は清泉寮での新鮮な地元の食材の昼食をいただき、さすがは高原の味といった言葉が参加者からは多く寄せられました。

美術館到着後の平山東子学芸室長による展示品の解説は、一気に芸術の秋に心を遊ばせることができたと大変好評でした。一同熱心に耳を傾けた後に、今度は音楽でのひと時を。中国琴のマオ・ヤ氏の演奏はダイナミックな調べに包み込まれるようなスケール感があり、遙かなるシルクロードを連想させてくれるものでした。コンサートの後、ラクダ公園でのワイン&クラフトフェスタを三々五々楽しんだ後に、平山美知子館長他数名を加え総勢四十四名で復路につきました。

車窓の景色を楽しみながら山梨のルミエールワイナリーに到着し、葡萄畠や有形登録文化財の石蔵ワイン発酵槽などを見学しました。

その後のひと時は、赤白それぞれのワインの良さを引き立てた小皿と相まって、老舗ワイナリーの奥深い味を楽しめたと、参加者のお一人一人が楽しげなご様子でした。

一路バスは新宿へ。予定が少し遅れて二十時過ぎに無事解散いたしました。

お天気にも恵まれ、贊助会を通したつながりの中で芸術の秋を十分に楽しむことができたことに、関係したスタッフ一同、心より感謝しております。



作品解説をする
平山東子学芸室長



またその前日の5日には贊助会協賛のバスツアー、当館の尾花理事が企画された鎌倉ユネスコ(高徳院 佐藤美智子会長)の御一行の約40名が美術館を訪れてくださいました。地元のスタッフとの交流もあり、当館の秋の行事をにぎやかに盛り上げてくださいました。いつもながらの心強い応援団に、美術館一同心より感謝申し上げております。

(鎌倉事務局 喜安 香奈子)

美術館スタッフ研修旅行

○2013年10月29日(火)

○参加：33名

○見学場所：東京国立博物館

東京藝術大学大学美術館

◎2013年度研修旅行を終えて

8回目を迎えたスタッフ研修旅行、10月29日(火)は上野で国宝、重要文化財づくしの1日でした。国立博物館の特別展「京都」では、洛中洛外図屏風の傑作(特に舟木本の人々の生き生きとした描写に感動)と御所、二条城からの豪華絢爛な障壁画等、京都でもなかなか見ることのできないものばかり、竜安寺の石庭の四季の移ろい映像に至っては去りがたい美しさでした。藝大美術館の「興福寺 仏頭展」では若さ漲

るお釈迦様のお顔、それをお守りする木像12神将立像と、わずか3cmの厚さに彫られた板彫12神将像、共に極限の姿が実に力強く、古え人の感性と技術の高さに脱帽です。現地では館長始め、鎌倉のスタッフの方々もお忙しい中合流してください親睦を深めることができました。シルクロードの東の端で花開いた日本文化の底力を肌でかんじた充実した研修となりました。

(いくみ会会長 宮崎)



イベント報告

2013年6月～2013年11月

○ワークショップ



7月15日(月・海の日)

甲府アイメッセ・夏休み自由研究プロジェクト
「シルクロードのストラップ＆うちわ作り」

講師:ボランティアスタッフ3名
美術館スタッフ1名
参加者:小学生85名

8月4日(日)

「出張絵手紙コンテスト&うちわに絵を描こう」
(北杜ふるさと祭りにて)

講師:ボランティアスタッフ3名
美術館スタッフ3名
参加者:小中学生96名

9月23日(月・秋分の日)

鍛造ワークショップ(大人向け)
「鉄を叩いてみませんか?」

講師:三井亮祐(鉄刻屋)
参加者:大人9名
子ども3名



7月26日(金)

鍛造ワークショップ(青少年向け)
「鉄を叩いてみませんか?」

講師:三井亮祐(鉄刻屋)
参加者:大人6名
子ども5名

8月17日(土)

版画ワークショップ(青少年向け)
「モノタイプで美術館の中にいる動物を描こう」

講師:美術館スタッフ
参加者:大人5名
子ども11名

10月13日(日)

木工ワークショップ(青少年向け)
「ぶどうがらのバードコールを作ろう」

講師:伊藤真樹(いとうぐみ)
参加者:大人9名
子ども3名

○講演会

11月2日(土)「シルクロードの饗宴
—葡萄とワインの文化をめぐって—」展
関連講演会
「ガンダーラ美術と葡萄と木薦」
講師:田辺勝美先生
参加者:60名

○オープニング

6月28日(金)「シルクロードの饗宴
—葡萄とワインの文化をめぐって—」展
オープニング

第3回私のシルクロード公募展

館長賞が決まりました。

山梨県を中心に活動する作家を対象に、
『シルクロード』をテーマに公募展への参加
者を募集した結果、13名の作家が参加して
くださいました。展示会の初日に、平山美
知子館長の審査による「館長賞」の選考が
あり、下記作品が受賞されました。



・作品名:Piantiamo!～じゃあ植えよーか～
・作家名:津村郁美
・工房名:陶房のぎ(北杜市長坂町)
《作家コメント》

片面にシルクロードの西の端イタリアを、
もう片面に東の端の日本を描いた植木鉢
です。この植木鉢に木を植えて、木の成長
とともに、これまで1200年を超える交流の
歴史に思いをはせていただければと思
います。

○第4回絵手紙 コンテストの受賞式

6月28日(金)第4回絵手紙コンテストの受
賞式を執り行いました。
平山美知子館長による賞状の授与と、優
秀作品の講評を実施しました。今後も多
くの方々のご参加をお待ちしております。



○スクールプログラム

6月7日長坂小学校3年生 54名
(展覧会見学)
8月6日若尾バレエ学園 35人
(展覧会見学・スケッチ)
8月17日長坂中学校美術部 9名
(展覧会見学・ワークショップ参加)
11月20日山梨県立中央高等学校 56名
(展覧会見学)



開館カレンダー

1 January							2 February							3 March						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1 冬期休館	2	3	4							1							1
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	2	3	4	5	6	7	8
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15	9	10	11	12	13	14	15
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	16	17	18	19	20	21	22
26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28		23	24	25	26	27	28	29
4 April							5 May							6 June						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2	3	4	5				1	2	3		1	2	3	4	5	6	7
6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14
13	14	15	16	17	18	19	11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21
20	21	22	23	24	25	26	18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28
27	28	29	30				25	26	27	28	29	30	31	29	30					

11/16～6/23 「平山郁夫日本の風景を描く」展
 3/21～6/23 「シルクロードのコイン 王侯たちの肖像」展
 6/28～10/6(予定) 「平山郁夫とシルクロードの旅」展

※12/24～1/3は冬期休館
 ※3/18～20 6/24～27は展示替えのため休館
 ※2/11,4/29,5/6は開館

●…は閉館日です

賛助会 だより

賛助会会員募集

賛助会は美術館の活動を支援するとともに、会員の皆様の交流をはかることを目的として発足いたしました。皆様から寄せられました会費は、展覧会の開催、講演会・講座の開催、国際交流、美術館の維持管理などに使用されます。賛助会員にはさまざまな特典(詳しくは美術館HPをご覧ください)のほか、交歓会等イベントも予定しております。皆様のご入会を心よりお待ち申し上げております。

◆会 費 個人会員……10,000円
 家族会員……15,000円
 法人会員……100,000円

◆受付期間 随時受け付け(毎年7月に更新。12～3月までにご入会の方は初年度の年会費は半額、4～6月ご入会の方は翌年6月末日まで有効)。

◆申込方法 申込用紙に必要事項をご記入のうえ美術館にご郵送いただけ、所定の銀行口座に会費をお振り込みください。申込用紙をご希望の方は、美術館HPからダウンロードするか、美術館にご請求ください。

お知らせ

平山美知子作品展 を開催しました。

10月30日(水)～12月23日(月)

ギャラリー&ショップ亜絲花、2階ギャラリーにて今年で3回目となる平山美知子館長による作品展を開催しました。今回の展覧会では、館長自身が子どものころ木登りをした、大きな桜の木を描いた日本画作品の他、20代の頃に制作した抽象的な版画作品など、初公開となる作品を中心に展示され、平山館長の新たな一面を見ることが出来ました。また自画像や、屏風に仕立てた版画作品など平山館長の多彩なイメージが感じられる空間となりました。

ギャラリー&ショップ亜絲花は冬季休館となります。

開館は2014年3月21日(金)からとなります。



公益財團法人

平山郁夫シルクロード美術館

平山郁夫シルクロード美術館ニュース 第17号 平成26年1月1日発行

発行 公益財團法人平山郁夫シルクロード美術館

〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間2000-6 Tel 0551-32-0225

URL <http://www.silkroad-museum.jp>